

口頭⑨

薬局から始める取り組みで外来化学療法のサポートを

上野店
○笹本 千香子

【はじめに】

がん薬物療法が入院治療から外来治療へ移行するなかで、保険薬局の果たすべき役割は増大しているが、いまだ治療状況を把握し適切な患者サポートを行うことが難しい現状がある。処方元からの情報提供を待つばかりいるのではなく、薬局から始める取り組みが重要であると考え、地域としてがん患者への支援を充実させるために平成 27 年 6 月より近隣薬局との合同研修会を定期的に開催している。その中で共通ツールとして作成した「多発性骨髄腫患者サポートシート」（以下、MM 患者サポートシート）の運用状況と共に薬業連携の実現に向けた取り組みについて報告する。

【方法】

「MM 患者サポートシート」の運用から 3 か月経過した時点で、使用状況や使用した感想を収集するためのアンケートを実施し、主な処方元である永寿病院薬剤師に合同研修会の開催と「MM 患者サポートシート」運用結果について報告した。

【結果】

アンケート結果（回収人数 17 名：回収率 85%）より、サポートシートを利用した全ての薬剤師が使用する前に比べて患者から確認できる内容が増えたと回答した。なかでも副作用については、起こりうる症状をサポートシートに書き示すことで患者自身も副作用と気づいていなかった症状を抽出することができた。

薬業連携の一步として、近隣薬局薬剤師のみで行っていた合同研修会に病院薬剤師複数名の参加を得ることができ、サポートシートで得られた患者情報を病院にフィードバックする方法を検討中である。

【考察】

「MM 患者サポートシート」は、処方せんや患者インタビューから治療状況や副作用発現状況を確認するためのツールとして有効であると考え。また、薬業連携を進めるには、薬局薬剤師が情報を得た時に何が

できるのかを示す必要があると考え。今後も定期的な合同研修会の開催と共に共通ツールの運用を行い、地域連携の強化とがん患者に対する支援の充実につなげていきたい。